



## 子供たちを水難事故から守るために ～ ご家庭へのお願い ～

日に日に暑さが厳しさを増し、最高気温が30度を超える日も珍しいことではなくなりました。実は、子供の水難死亡事故の約6割は「河川」と「湖沼池」で発生しています。これは、海で亡くなった人数の2倍以上だそうです。また、梅雨明けの7月から8月は、河川等水難事故件数の約半数が集中して発生している時期でもあります。(時間帯は午後2、3時頃が一番多いそうです) 校区内、またその近辺を見渡してみると、やはり心配な場所がたくさんあります。「子供たちだけで釣りに行っている」という話を耳にすることもあります。ご存じのとおり、流れや深さなど様々な要因が重なって、いったん足を取られたら浅い水場でも大事故につながります。学校でも指導しますが、ご家庭におかれましても、子供たちだけで釣りや水遊びに行くことのないよう繰り返しお伝えいただきますようお願いいたします。

(参考資料: 公益財団法人河川財団資料)



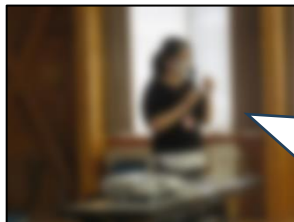
# 前途洋々



## スクールカウンセラーによる講話 ～ 対人スキル・SOSの出し方を学ぶ ～

6月4日(木)、9日(火)、18日(木)の三日間に分けて、全学年・全学級を対象に表題の学習を行いました。暑い時期となりましたので、お隣の花園コミュニティセンターを借用させていただき、冷房のきく快適な環境の中で実施しました。講師は、高学年は赤星スクールカウンセラー、中・低学年は中林スクールカウンセラーのお二人です(宇城教育事務所から)。学年によって内容や構成は若干違いますが、この授業の主な目的は三つあります。

- ① 困ったらSOSを出せる力を付ける。
- ② パーソナルスペースをお互いに大事にできる。
- ③ “イヤ”と相手にしっかりと伝えることができる。



講師の赤星  
スクール  
カウンセラー

現在、子供たちを取り巻く環境はかつてないほどのスピードで変化しています。今後、どのような環境に置かれようとも、自立し、自分にとって安寧な環境を自らつくり出していくためには、この三つは絶対に必要な力です。「困ったらSOSを出せる力」は、どのような環境においても必要です。講師の先生も、「人に助けを求めることは『弱い』ことではないんだよ」と何度も強調されていました。また、「パーソナルスペース」とは、「ここまでなら近づいてもOK/ここから先は近づいてほしくない」という心や身体の距離のことで、もちろん相手によってかわります。相手のパーソナルスペースを守ることは、自分のパーソナルスペースを守ることもつながります。今回は、上手に相手から距離をとる方法も教えていただきました。このことは、相手の立場に立って行動するということから、人権感覚の涵養にもつながっています。幼い頃(低学年では特に)はこの距離感が分からず、トラブルになることも多々あります。さらに、「イヤ」であることを伝えることについては、三つに分けて説明がありました。「優しくイヤ/きっぱりイヤ/強いイヤ」の三つです。これも少しずつスキルを身に付けていかねばなりません。危険やトラブルに巻き込まれそうになったり、命の危険につながったりしそうなときは「強いイヤ」を言うことができなければなりません。(講師の先生も強調しておられました) 年齢が上がってくると、友だち・仲間の言うことについて優先順位が上がり、流されるままに判断を誤ってしまう可能性もあります。いずれにせよ、私たちは子供たちが困ったときに、いつでもきちんと耳を傾けることができる大人でありたいものです。

5年生の様子

